

式 辞

校舎を取り巻く木々の蕾も日ごとに膨らみ、寒さの中にも躍動する春の息吹が感じられる今日の良き日、令和になって最初となる敬愛学園高等学校第65回卒業証書授与式を厳粛かつ晴れやかに挙行できますことを心から感謝申し上げます。

ただ今、382名の卒業を認定いたしました。卒業生の皆さん、卒業おめでとうございます。

今、皆さんの脳裏には本校での出来事が次から次へと走馬燈のようによみがえっていることと思います。皆さんは一人ひとりが本校の建学の精神『敬天愛人』をモットーに本校で充実した高校生活を送りました。毎日の学校生活で見せた明るく素直な生活態度、学校行事で示した集中力と団結力、放課後の部活動や生徒会活動での直向きで誠実な取組、これらは本校の良き伝統として、令和の時代も後輩たちにしっかり引き継がれていくものと確信しています。

私は昨年4月に本校に着任しましたが、敬学祭や体育祭などの学校行事、部活動の大会などで皆さんが見せる情熱やエネルギーに何度も胸が熱くなったことが思い出されます。感動をありがとうございました。

さて、皆さんがこれから歩む社会は地球規模のエネルギー・環境問題や食糧問題、そして国内では急速な少子高齢化など様々な課題を抱えています。

また、近年は自然災害も多発しており、昨年本県を襲った台風に伴う強風や大雨は記憶に新しいところです。そして現在、私たちは新型コロナウイルスの脅威にさらされています。

さらに、人工知能やロボットをはじめとする 先端技術の加速度的な進歩により、変化が激しく、先行きが不透明な社会でもあります。

そのような厳しい社会状況ですが、皆さんには「人生100年」と言われる時代に充実した人生を歩んで欲しいと思っています。

卒業に当たり、皆さんに2つお願いがあります。

1つ目は、思いやりの心を大切に、豊かな人間性を備えた人になって欲しいと思います。人への思いやりは自らも幸せにしてくれます。周囲の人から信頼されるようにもなります。本校建学の精神「敬天愛人」を卒業後も実践し続けて欲しいと思います。

2つ目は、高い志を持って、失敗を恐れず挑戦し、最後まであきらめずに粘り抜く人になって欲しいと思います。皆さんには無限の可能性が 있습니다。限界は他人が決めるのではなく、自分の心の中にあるものです。挑戦する前から自分の限界を決めないでください。時には失敗することもあると思いますが、その経験が自分を成長させてくれると信じて、前に進んでいってください。

そして、常に将来に希望を持ち、変化に対応しながらも、周囲に流されることなく、自らの座標軸をしっかりと持って、主体的に生きていくことを期待します。

結びになりますが、皆さんが高校卒業という人生の節目を迎え、最も喜んでいら

っしやるのが、これまで皆さんを一番近くで支え、見守り続けてくれた保護者・ご家族の方々だと思います。

今日、家に帰りましたら、是非、感謝の気持ちを言葉で伝えてください。

それでは、希望に満ちた門出に当たり、この学舎を巣立ちゆく皆さんの前途に幸多からんことを心から祈念して式辞といたします。

令和2年3月1日

敬愛学園高等学校 校長 奥山 慎一